



市民活動支援 2023 南房総地域における鳥獣被害の解決に向けた取り組み

実施者

＜教員＞ 千葉大学 特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司
 ＜学生＞ 千葉大学 理学部 物理学科 2年 佐々木 七菜
 ＜協働パートナー＞

【行政】南房総市役所 市民課 市民協働グループ 【企業等】ヤマナハウス, 合同会社アルコ
 【個人】ヤマナハウス南房総三芳のシェア里山 代表 永森 昌志, 副代表 沖 浩志, マネージャー 溝口 耕一
 合同会社 DIEM 代表社員 大阪谷 未久

1. 背景・目的

日本では近現代における発展に伴い里山の保全が蔑ろにされてきた。都市に人口集中が進む一方で地方では過疎化が進み、里山を保全する人が少なくなってきた。また安い輸入木材によりわざわざ里山から木を伐り出して使用する必要がなくなった。そのため人の手が入らなくなった里山はどんどん荒れていき、鳥獣の行動範囲が人間の居住地の近くまで広がるようになり、人的被害の危険性も高まっている。これにより、作物が食い荒らされる等の有害鳥獣被害が顕著になっている。近年イノシシを始めとした有害鳥獣が急増していることもあり、早急な対応が求められる一方で、鳥獣の個体数の増加や狩猟人口の高齢化に伴い、狩猟者は減少している。

このような事態に対処するためには、有害鳥獣への対策と共に里山に立ち入って十分に管理すること、有害鳥獣の魅力を高めることが求められる。鳥獣自体あるいは鳥獣の捕獲への魅力が高まれば鳥獣への需要も高まる。それが捕獲することへのインセンティブに繋がることで、狩猟者を増やすことが出来ると考えられる。

私は南房総地域での活動を通じて、里山をどう保全していくか、周囲の人間をどう巻き込んでいくか、鳥獣被害についての認知度を上げるためにはどうすればいいかといった方法を実際の活動を通じて学び、現在の問題に対していきたいと考えている。また、それに加えて将来自分が鳥獣被害に取り組む際の参考にすることを目的とする。

2. 実施内容

(1) 実施日

- 1) ヤマナハウスでの活動 (5/4, 5/27, 6/17, 7/9, 8/10, 9/9, 9/24, 1/14)
- 2) 千葉大学内での講義 (8/3, 8/29)
- 3) 「北条海岸 BEACH マーケット」(北条海岸) (6/4)
- 4) 「SDGs ライフスタイル展」(そごう千葉店) (8/5, 8/6)

計 13 回

(2) 活動内容

1) ヤマナハウス

ヤマナハウスでは階段整備や草刈り、罠の仕掛けといった里山整備活動を行った。罠の仕掛けでは眺めているだけであったが、普段は目にするものがないものなのでとても興味深かった。動物が罠に対してどう行動するかを考えて罠を設置する必要があり、まるで動物が人間と同じくらいの知性を持っているように感じた。ヤマナハウスに来る人は毎回楽しんで活動しており、小さなコミュニティが出来ているような感じであった。ここでは里山保全活動を楽しんでいくためにはどうすれば良いのかを学ぶことが出来た。

前述の授業でも訪れており、その際は通常通りの活動の他、現地を見てからの鳥獣被害対策及びサーキュラーエコノミー実現に向けた提案についての話し合いや発表を行った。発表の際にはヤマナハウスの方々からアドバイスをいただくことができ、今後の取り組みの参考になった。

2) 千葉大学での講義

「ローカル・プロジェクト実習 A」という授業を受講した中で、鳥獣被害やサーキュラーエコノミーについて学んだ。千葉大学構内ではサーキュラーエコノミーや後日訪問予定のヤマナハウスについて学んだり、鳥獣被害について各自で調べて持ち寄りしたりした他、実際の取り組みを見てどのような提案を自分たちが出来るかについて話し合った。授業を通して鳥獣被害についての理解を深めることができ、またサーキュラーエコノミーのためには何が必要なのかを学ぶことが出来た。

3) 「北条海岸 BEACH マーケット」(北条海岸)

北条海岸で開催された「北条海岸 BEACH マーケット」に大阪谷さんがレザークラフトのワークショップを出演しており、その運営の補助を行った。ワークショップではキョン革を使用したコードクリップ作りとイノシシ革を使用したミニイノシシ作りを行った。立ち寄ってくれた人の中には鳥獣被害に身近に接している方がいた一方で、キョンについて全く知らなかった方もいて、鳥獣被害の認知度を高めることの必要性を感じた。



1 罠を仕掛けている様子 2 北条マーケットでのワークショップの様子 3 そごう SDGs ライフスタイル展で出展している様子

域学協働の工夫!

- ★ヤマナハウスでの繋がりで大阪谷さんと連携することになり、お互いにとって実りのある活動を行うことが出来た。
- ★南房総地域に何度か訪れて現地の活動に参加させていただいた他、ワークショップの運営補助という形で南房総地域以外の方にも接することができ、鳥獣被害についての理解をより包括的に深めることが出来た。

4) 「SDGs ライフスタイル展」(そごう千葉店)

そごう千葉店で開催された「SDGs ライフスタイル展」において、ワークショップの出展補助を行った。ここでは上記と同様にミニイノシシ作りの他、キョンまたはイノシシの革を用いたコインケース作りの2種類を行った。大人の方の割合が高く、ワークショップを通じて鳥獣被害についての理解を深めてもらうことが出来た。

また、私が所属している「千葉大学環境 ISO 学生委員会」としても SDGs に関するワークショップを出展した。出展者間での交流も図ることができ、委員会の学生に鳥獣被害について知ってもらうことが出来た。

ることが求められる。

(2) 教育・研究面

ワークショップにおいて参加者に対して鳥獣被害について説明したことで、理解を深めてもらうことが出来た。現状について知ってもらうことが出来たという点で教育面において貢献出来たのではないかと考える。鳥獣被害についてより多くの人に知ってもらう方法や有害鳥獣の活用方法については研究の余地があると思うので、今後取り組んでいく必要がある。

4. 今後の展開

今年度は自分自身の鳥獣被害に関する理解を深め、周囲の人にも知ってもらうことに重点を置いて活動した。鳥獣被害に対して南房総地域やそれ以外の地域でどのような取り組みがされているか、取り組む上でどのような障害があるかについて良く知ることが出来た。またワークショップで参加者にお話ししたり、日々の友達との会話で鳥獣被害を持ち出したりして、自分以外にも鳥獣被害の存在を広めることが出来た。今後は引き続き大阪谷さんが行っているワークショップをお手伝いすると共に、自分自身から発信することで学んだ内容を生かしてさらに多くの人に知ってもらうようにしたいと考えている。また、大阪谷さんのワークショップ以外にも南房総地域で行われている鳥獣被害対策の取り組みにより貢献していきたい。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

ヤマナハウスでは鳥獣被害への対策として他の学生と考えた案を提案することができ、大学生ならではの視点で意見を述べる事が出来た。提案しただけで実現には至っていないため、今後の活動を通して実現に向けて進めていく必要がある。また、南房総地域でのワークショップの出展補助を行ったことで、地域の方々や外部の方々に、南房総地域において鳥獣被害やその対策としてどのようなことがされているかを知ってもらうことが出来た。地域の中でもどのような取り組みが為されているか知らない人がいるため、まずは地域における鳥獣被害のための取り組み事例の認知度を高め、理解を得

*表彰・マスコミ掲載など
 ・「YAMANAHOUSE」公式 HP (2024/2/11 閲覧) <https://yamanahouse.site>